

校内研究だより 第3号

南関第三小学校
令和8年7月21日
研究主任：石田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

7月10日（金）第5校時、松山先生がたんぼぼ学級において国語の研究授業を行いました。

○単元名「仕事のくふう、見付けたよ 8／10」（光村図書「国語 三上 わかば」）

① 漢字フラッシュ



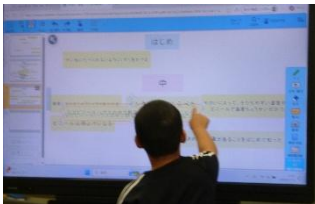
② 見通しをもつ



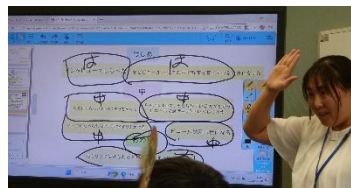
③ めあての確認



④ 本時の学習の確認



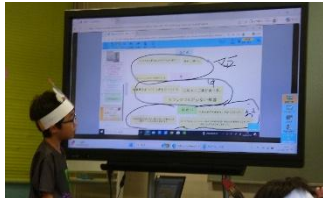
⑤ 学習の仕方確認



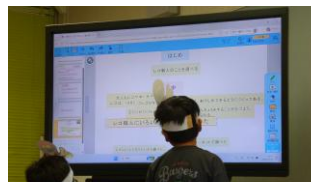
⑥ 個別学習



⑦ 児童同士で確認



⑧ 児童同士で交流



⑨ ふりかえり



単元を通して、ミッションを遂行するために、お面をかぶって、学習した3人の子供たち。Tさんに、ばれないように、黙々とミッションをこなして、やる気満々で学習をすることができていました。個別の手立ても、一人一人に合った内容で、その日ごとの対応の仕方学ぶことが多い授業でした。

★共通実践事項

○国語科スタンダード

○交流学習において、根拠をもとに説明し合う

裏面へ

※R8年度、「学校化」を目指して取り組んでいきましょう。よろしくお願いします。

授業後の感想の紹介です。

授業参観等でお忙しい中、研究授業お疲れ様でした。一人一人の特性に合わせられた指導や支援をされている姿を拝見して、自分の授業を省みました。子供たちを丁寧に見る願いや思いを聴く、そのようなことを心がけていきたいと思ったことでした。難しいかもしれませんが、少しずつでもやっていきたいと思います。 (福永先生)
とても学びの多い授業でした。特性をもつ子供一人一人に対して、どのように授業を組み立てていくかとても難しいなと思いました。でも、松山先生が日頃から子供たちのことを理解して、学びの選択肢をつくられているからこそ、子供たちが安心して学ぶことができていたのだと思います。 (西先生)

◎グループ協議で出た意見

良かった点	・意欲を持たせる手立てや、いつも通りの漢字フラッシュからスタートしたことで緊張がほぐれていた。 ・見通しがはっきりしていたことで、意欲付けにつながった。 ・子供たちの反応を見てから、臨機応変に対応されていた。(個別の配慮ができていた。) ・子供たち同士で、バトンタッチをして、学びを深めていた。(協力する力を高めた)
課題 → 改善策	・「わかりやすく」とはどういうことか、視点を与えると良かった。 (相手に伝わったのかの確認が必要) ・学習のまとめを行うと良かった。(わかりやすくなったのかどうかをふりかえる。) ・整理した活動を紙に書く時間はなくても良かったかもしれない。 →わかりやすい視点を明確にし、視点にそって、各自が振り返る時間を設ける。学習のまとめにつながる。

授業者 松山先生より

子供たちはとても緊張していた。しかし、3人とも頑張りたい気持ちが強く終始よく頑張っていた。JさんやTさんは、人に見られることに不安が強く、何度も深呼吸していた。自分がドキドキしていることを先に伝えてしまったことで、さらに子供たちの緊張が高まってしまったかもしれない。しかし、子供たちは、「バトンパス」という言葉で、役割をつなげていた。自分自身が漠然とした中で授業をやっていたので、授業の組み立てをしっかりと考えて他教科にも生かしていきたい。

教育センター 西澤 園香 指導主事(講師)より

- ・指導者が生き生きと授業をしている姿がすばらしかった。
- ・特別支援においては、自立活動との関連を意識して授業を組み立てる。
- ・自立活動で学習したことが生かされていたか。「わからない」の背景を探る。
- ・本時では、身につけさせたい力がやや弱かったかもしれないので、問いかけの仕方を工夫するとさらに良かった。
- ・授業作りをするときには、どんな反応が返ってくるのかを考える。
- ・結束性と一貫性(つながっているか・まとまっているか)を考える。
- ・子供たちの選択肢を認めることが大切。
- ・児童の思いや願いにそった経営を心がけることで、よりよい学級経営ができるようになる。